

学習会 (子ども会) だより 5月号 後編
MY SKY 第3号
マイ スカイ

1995年5月30日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責:吉成正士

5月が、早くも終わろうとしています。1学期のちょうど真ん中の時期になりましたね。
「もう1学期も半分が終わったのか」という感じではないでしょうか。各クラス、各学習
会場での雰囲気はどうですか?居心地の良いものになってきていますか?残り半分で、今
までの取り組みをより確かなものにして、夏休みに臨みたいものです。

◎1995年度全体学習いよいよスタート!(5月25日・3年第1回全体学習「学習会の仲間」)

ところで、本年度のトップを切って、5月25日に3年D組が第1回の全体学習を行いました。5校時に重い空気が流れることもありましたが、藤川先生自身の熱い思いや、教師
として、人間としての願いが胸に響き、その中で、ポツリポツリと生徒のみなさんが発言
していきました。

部落外の生徒が、親の差別意識に触れた衝撃を語ってくれました。特に恋愛のことで、
顔色を変えて反対する親の姿についての発言がありました。そんな親の姿を見ることは、
誰だって辛いものです。しかし、「親を憎むのではない。そんな親にしてきた差別意識
を憎みます!」という、差別意識を洗おうとする思いが、多くの参加者の心を打ったのだ
と思います。

この発言に触れて、部落の仲間が発言していきました。

「『差別されたら黙つとれ』と親に言われた。やっぱり少数人数では頑張りがきれん……」
差別を受けることを認め、耐えることを子どもに教えざるを得ない親の気持ち……。どう
してそこまでして我慢しなければならないのかという怒りが、腹の奥底から沸き起こって
きました。やはり「連帯することだ」と、私は直感しました。どうしてもここに結論はた
どり着きますが、やはりそれしかないと考えます。これらの問題を解決する方法の根本に
は、人間連帯がなければならない。そう感じます。

6校時も、多くの仲間が5校時の授業を受けて発言を繰り返していきました。「絆」の
作り方をみんなに問う発言。江戸時代の鎖国政策に触れて、現代社会に残っている部落差
別の矛盾を訴える発言。それらの発言を受けて、今まで学習会にほとんど参加できていな
かった生徒が、「これからは頑張って学習会に行く」と決意を述べることになっていきま

した。

若さ^{わか}というものは、とてつもないエネルギーを生み出します。それらが結^{けっしゅう}集したときのパワーは、大人をも優^{ゆう}に越えていきます。その恐れ^{おそ}を知らないエネルギーを結^{けっしゅう}集し、それでも驕^{おご}ることなく、互いに切磋琢磨^{せつさたくま}し合いながら、伸ばしていこうではありませんか！

この全体学習に寄せる生徒の感想の一部を、少しだけ掲載しておきます。

5時間目、私はいつもより真剣^{しんけん}だった。いつも話をしているのに、目が離^{はな}せなかった。別れていった2年の時のクラスの仲間の頑張っている姿を見る機会^{きかい}が、5時間目だったから。最初藤川先生の思いを語ってもらって、それを聞いて「ここでも頑張っている仲間が作られてるんだ」って思って嬉^{うれ}しかったんだけど、二人しかつながってなくて……。「私がつながってあげたい！なんで手挙げ^{てあ}げへんの？私が言うよ！」って思っていて……。けど、私はそこにはいない。私は3Dの生徒じゃない。ここで私が言ったとしても、それでは解決^{かいけつ}しない。この後の3Dはどうなる？クラスのこれからは？その時、私はそこにはいない。そう思い直さなければ、マジで言ってたかもしれない。けど最後、KUとかKGとかSTが発表^{うれ}してくれて嬉しかった。

でも、ある先生が寝^ねてた（ように見えた）のは辛^{つら}かった。泣きかけて、腹立^{はな}った。それを5時間目終わって友達に言ったら、泣いた。声をあげて泣いた。あんなに声をあげて泣くのを見たのは初めてだった。余計^{よけい}に腹が立ってきた。むかついた。その人に対してだけでも、その人を作った周りのモノに対しても、むかついた。この1年でその人を変えたい。私たちで変えていきたい。

3年女子

※

私、SMくんとは結構^{けっこう}話せる。1番初めの3Bの学活の時、SMが1番に発言したんよ。その後、私たちでつないでいった。そのことで、授業終わった後3人で話した。NGとはあまり顔合^{かおあ}わせないから話す機会ないけど、これからは話しかけていくつもり。KMくんの発言は凄^{すご}かった。みんな凄^{すご}いんだけど、何か違^{ちが}う気がした。「今まで板中でいなかったから、こんな学習もあんまりしてなかったん違^{ちが}うかな」って思ってたのに、185人の中で堂々^{どうどう}と発表^{しょうは}して……。本当に初歩^{しょぽ}のことを、分かりやすく言ってくれて、嬉^{うれ}しかった。KMは進められてだけど、発表^{うれ}してくれて、3Bでも二人発表できる子が増えて^{うれ}嬉しい！IDもほんま、あと少し！

3年女子

板野中学校の全体学習は、県内外^{けんないがい}を問わず広まってきたわけですが、この日も山口^{ぐちやま}中学校、美馬^{みま}中学校、山川^{やまかわ}中学校など、多くの参会者^{さんかいしゃ}がありました。こうして見てもらう

ことで全体学習自体が広まりますし、また教師も生徒も含めて「できていない点」「改善していかなければならない点」も指摘してもらえます。そうしていくことで、互いの学校の同和教育の取り組みを、高めることができます。ありがたいですね。

その、全体学習に寄せる^{さんかいしゃ}参会者の感想の一部を、次に掲載しておきます。

5校時、^{むずか}難しい質問で生徒も^{はつひよう}発表しづらそうでしたが、^{かなら}部落問題を考えるとき必ずぶつかる^{かんかく}感覚であり、ごまかさずに見つめていかなければいけないことだと思います。先生の一生懸命の^{いっしょうけんめい}志^{こころざし}を感じたとき、生徒って^{むずか}難しくても発表する勇気が出るんだなと思いました。いつも授業で発表が出なくて^{こま}困ってしまっている自分を^{かさ}重ねながら、どうしたら発表してくれるんだろうと考えていました。

6校時、今年主事になったものの「素晴らしい」と感じられる他の先生方のようにない自分が、今年学習会の仲間と共に考えたり、学校全体（生徒も^{しよくいん}職員も）やる気になれる^{ほんき}雰囲気（^{ほんもの}本気だな、本物だなと感じてくれる）を作っていける自分になるには何を考え、何をしていけばいいのか求めながら参加させてもらいました。最後に吉成先生の言ってくれた^{ひとことひとこと}一言一言が心に^{ひび}響きました。今後生活に生かしていきたいと思います。

山川中学校

※

まず初めに、ごめんなさい。一生懸命聞こうとしたのだけれど聞き取れない発表がありました。みよちゃんだったのでしょうか？5校時の先生と私の^{たちば}立場がオーバーラップして苦しい思いでいっぱいになってしまいました。生徒の思いの発表を待つというのは苦しいものです。その思いが分かっている、発表するのを待つのは^{つら}辛いです。けれども子どもたちだって^{たたか}闘っているんでしょね。よく分かりました。先生の思いが伝わったとき、初めて心が動きました。私も一人の教師として、31名の学級の子どもたちと共に、明日、頑張ります。

山川中学校

これらのエールを感じながら、それでもやっぱり、自分自身の差別意識を^{あら}洗い続けるために、これからの取り組みをより一層^{いっそうじゅうじつ}充実したものにしていきましょう！



◇ ◇ ^{にっぺい}これからの日程 ◇ ◇

- ★6月1日(木) 2年C組2年全体学習
- ★6月6日(火) 学級部落問題意見発表会

- ★6月9日(金) 学年部落問題意見発表会
- ★6月13日(火) 校内部落問題意見発表会
- ★6月15日(木) 1年E組1年全体学習
- ★6月22日(木) 3年E組全校全体学習(板野町同和教育研究大会)
- ★6月23日(金) 板野郡部落問題意見発表会(本校体育館)
- ★6月27日(火) えしましゅうさくこうえんかい江嶋修作講演会(本校体育館)
- ☆6月30日(金)～7月2日(日) 徳島県総合体育大会板野郡予選大会
- ★7月5日(水) 2年E組2年全体学習(四国同和教育研究大会前日全体学習)
- ☆7月6日(木)～7月10日(月) 1学期末テスト

とりあえずは、2年C組、1年E組のみなさん、全体学習に向けて、しっかりと各学級で話し合いを深めておいてください。そして、それぞれに納得のいく学習ができるように、頑張りましょう！また、他のクラスのみなさんも6時間目には自分の思いが一つでも伝えられるように、しっかりと仲間の発言を聞き、自分の思いを深めておきましょう！

また、部落問題意見発表会が繰り返し行われていきます。各学級、各学年の絆^{きずな}が深まっていくような、意義^{いぎ}ある発表会にしていきたいものです。発表原稿^{はっぴょうげんこう}を書くまでに、それぞれが自分の中にある「部落に対する思い」を今一度確認して、原稿作成^{げんこうさくせい}にかかれるようにしましょう。そして、「本当に頑張れたな！」と思える発表会に、是非^{ぜひ}ともしていきましょう！

◎^{こうこうせい}高校生よ!^{あつ}熱い^{おも}思いをいつまでも!

徳島県同和对策推進会が毎年だしている同和問題研 修テキスト「展望」の中に、昨年の
同和問題意見発表徳島県大会の原稿が掲載されていました。本校の卒業生で、在 学 中にも
強 烈な印 象を私たちに残して巣立っていった、みなさんの先輩です。今もお高校で、
また板野町高校生友の会「真友会」で頑張り続けています。その当時の熱い 炎 を、今私た
ちは継 承し、より確かなものへとしていこうとしています。今の高校生の頑張りに続いて
いく全体学習を、より多くの仲間と積み上げていこうではありませんか。その原稿を、次
に掲載しておきます。しっかり読んでみて下さい。

私自身の

よろこびのために



東 玲子さん
徳島商業高等学校2年

今、自分にできること。それは、本音で語ること。「私は、好きな人が同和地区出身でも、好きな人と結婚します。」

私が、部落差別を知ったのは中学生のころでした。私の通っていた中学校では同和問題学習が盛んでした。学年、学校全体で「全体学習」という同和問題学習をしました。二〇〇人、三〇〇人という生徒の前で、自ら手を挙げマイクを持って思いを語るので、いじめられていたことを、泣きながら「私は同和地区出身です。」と、自らつらい思いを語ります。それを支えるように、まわりの友だちが自分の差別心をさらけ出し、差別に怒り、差別と闘っていききました。私は、あの時ほど自分が好きだったことはありません。あの時ほど、友だちを大切に愛おしく思ったことはありません。

私の好きな人も同和地区出身でした。全体学習の時、その人は部落民宣言をしました。私の親は、同和地区に対し、差別心ま

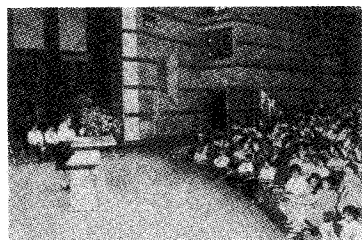
る出しに私に接してきます。だから、私はそんな親が許せませんでした。私の友だちを、私の好きな人を苦しめる部落差別が許せませんでした。そして、親に何も言い返せない自分が、何よりも悔しく情けなかったのです。だから、好きな人が部落民宣言をした時、とまどいました。

それから、私のほんとうの同和問題学習が始まりました。今までは、先生が機会を与えてくれたので全体学習でした。でも、みんなの思いから、自主的に全体学習を行うことができました。卒業式前日、自分たちの手で初めて行った全体学習は、今まで言えなかった思いを語り、これからの決意に満ちた全体学習でした。中学校での同和問題学習は、これから生きていくうえで、人間として生きる道を知るきっかけになりました。

今、私は高校生の友の会活動に参加しています。いろいろな学校の生徒が集まり、部落差別や学校のホームルーム活動について話し合っています。みんな、「自分自身同和問題学習がしたい」、「差別をなくしていこう」という思いで、この友の会が成り立っています。また、この友の会は「真友会」とも言います。真の友と本音を言い、差別に負けそうになる友を励まし、支えられ、支え合う会が「真友会」です。でも実際に活動に参加し始めたのは、高校一年生も終わるころでした。それまで、私は何もしてなかったし、何も言えませんでした。高校では同和問題学習も少なくなり、友だちの中にも露骨にこの学習を嫌がる人がいました。だから言えませんでした。「同和問題

学習がしたいということ。」「差別をなくしたいということ。」「自分から言わなければ始まらない。それはわかっていたのに、友だちにどう思われるかが怖かったのです。私は、差別から逃げようとはかりしていません。そして、「真友会」の存在を知り、行くようになったのです。私は自分がだんだん変わっていくのに気付きました。高校の先生も何人か来てくれるようになり、学校における、同和問題に対する取り組みも積極的になってきました。それが、とても心強く大きな支えとなっています。

私は今、高校二年生です。一年前と変わったことは、部落差別について話せる友だちができたことです。これまでは、一番仲が良く、いつも一緒にいる友だちにも、同和問題については話せませんでした。でも、「真友会」に行くようになり、私は友だちに今している活動のこと、自分にとつての部落差別、そして同和問題学習がしたいということを話しました。同じ仲間がいるということが、心強いものです。「真友会」



1994年同和問題意見発表会より

辺だけのきれいな事だけの友だち関係になっ
ていたと思います。私は同和問題なしに自
分を語ることができません。今の私は、同
和問題学習あつての私だからです。

今でも差別はあります。その差別に気付
き、自らの差別心と闘うことが差別解消に
つながると思います。差別と向き合い、倒
れそうになるかもしれない。負けそうに
なるかもしれない。その時、支えてくれ
たり、頼っていただけるのがほんとうの友だち
なのではないでしょうか。その友だちを作
るのが同和問題学習なのではないでしょ
うか。

私は、同和問題学習が好きです。その時
の自分が好きです。そして、私のまわりの
たくさんの方が好きです。もともとと
好きになりたいです。だから私はがんばり
ます。人のためだけでなく、自分のために。
私自身のよろこびのために。ともに支え合
う真の友といつしよに。

部落の起こりとその歴史 第2話「阿波藩第一代当主蜂須賀家政の死」

寛永15年(1638年)の暮れ、阿波に入国後40数年間、藩の政治をきりもりしてきた

蜂須賀家政が亡くなりました。関ヶ原の合戦などの軍事的緊張が続く不安定な状況
の中で、藩政を揺るぎないものに仕上げていった人物です。特に、元和元年(1615年)
の大坂夏の陣で豊臣氏が滅んだことで、武力で幕府に逆らう勢力はなくなりました。
つまり、血生臭い戦争自体が姿を消したのです。

その中で幕府は、「武家諸法度」を取り決め、「参勤交代」を命じ、全国の大名を
将棋の駒を動かすように支配していきました。また、外国に対しては、鎖国政策を完
成させました。つまり、内にも外にも揺るぎないものを作り上げたのです。

阿波でも、蜂須賀氏の力の前に、かつての土豪勢力は広い土地も武器も取り上げら
れ、その大半は百姓に戻されました。また、幕府の支配も確立したため、事実上、
軍役の必要もなくなったのです。そして、戦争のない新しい政治は、農民支配へと変
わっていきました。

そんなとき、寛永14年(1637年)に、九州の島原・天草地方で、支配者を驚愕させ
る百姓一揆が起きました。「島原の乱」です。宗教信仰と結びついたこの一揆は
翌年、3万数千人の農民の命とひきかえに終わりました。このことで、全国の幕府や
諸大名は大変なショックを受けました。農民が団結し、死にものぐるいで立ち上が
ったときのエネルギーや激しさ、恐ろしさをあらためて思い知ったからです。

当時は、社会経済そのものが、農民から取り立てた年貢によってまかなわれていま
した。「島原の乱」のこともあり、支配者は農民をどのように支配し、安定して年貢

を取り立てるかが急務となったのです。そのために、新田開墾、小百姓の自立化(有力農民を作らないため)、寺請制度(寺院に農民を登録させ監視させる)、五人組制度(農民が相互に監視する)などを実施しました。そんな中、幕府は慶安2年(1649年)に「慶安の御触書」を出します。「百姓は煙草を吸ってはいけな。木綿以外の着物を着てはいけな。米をむざと食いつぶしてはいけな。朝から晩まで農作業に精を出さなければいけな」など、農民の私生活にまで立ち入った細かい規制が示されたのです。つまり、支配者の描いた農民像を上から押しつけたのです。

一方、阿波では「棟付改め」(戸籍調査)が行われ、農民の動きは藩に押さえられるようになりました。「棟付改め」は明暦2年(1656年)、延宝元年(1673年)、享保3年(1718年)と行われています。この記録を見る中で、部落の成り立ちを見ることができます。1700年代にはいと身分として「えた」と記録されていた者でも、1600年の中頃は、職業として「百姓」と記録されています。また、「同帳」(村に住む人は同じ1冊の棟付帳にしていた)から「別帳」(同じ村民でありながら、身分によって棟付帳が別けられた)にも、されています。つまり、棟付帳という公的な戸籍帳簿の上で、「えた」身分の制度的な固定化がはかられ、身分的な隔離が徐々に、徐々に進められたといえます。

承応3年(1654年)、藩から部落に通達が出されました。それまで百姓と同じように藩に奉仕してきた仕事を免除するというのです。そしてその代わりに、徳島城下に3日に1日の割合で出かけ、「掃除役」を勤めるように命じられています。「掃除役」とは、街路の清掃、犬猫の死骸処理、時には行き倒れ人や変死人の始末などをするものです。死を不浄なものと考えた傾向が強かった当時では、こうした仕事はいやしいものと忌み嫌う風潮が、人々の心にしみついていました。それが、いやおうなく上から押しつけられてきたのです。

延宝3年(1675年)には、新たな仕事が命じられています。犯罪人を処刑する場である刑場の準備一切です。この仕事は、もとは藩がかかえていた大工のものでした。

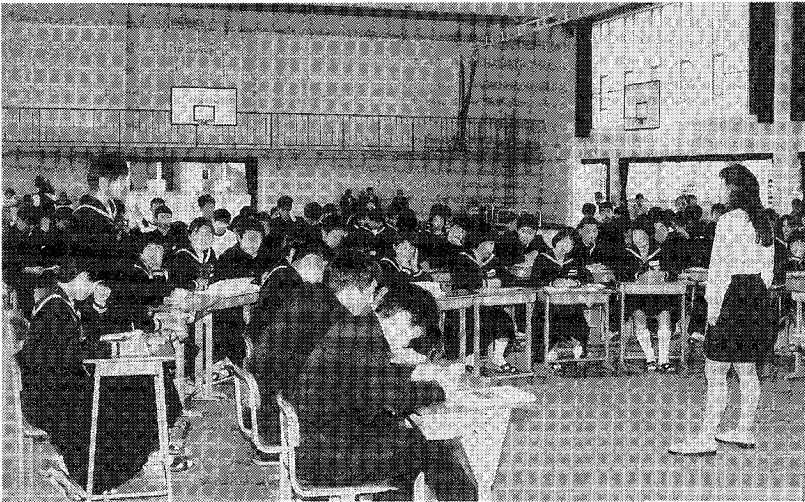
「掃除役」の内容が広げられた結果です。

そしてさらに、貞享元年(1684年)には城下近郊の二つの部落に、「掃除役」の免除とともに、「牢屋敷ならびに死罪の砌御用」を申しつけられています。牢の番、容疑者を自白させるための拷問役、獄死人の片付け、そして刑の執行です。まだ戦争があった頃は、「血になれる」ために足輕に要求されていました。しかし時代が安定

することにより、その必要性は薄^{うす}れ、「えた」身分に肩代^{かたが}わりさせられていったのです。永い時を経て、真綿^{まわた}で首をしめるように、じわりじわりと部落を包んでいきました。そして、気がついたときには、身動^{みうご}きがとれないような状況におかれていったのです。1600年代後半のことでした……つづく

次回「故郷^{ふるさと}から引き離され……」

「やさしい阿波の部落史」より改^{かい}編^{へん}



3年第1回全体学習（5月25日）